

来て高さ七六センチの金銅仙で鎌倉末期の作で県指定の文化財となっている。又、ふもとからも見える三重塔は江戸時代中期宝永元年（一七〇四）の建築で県の文化財に指定されている。標高凡そ二百メートルのところにあつて本堂、山門、三重塔と共に見事な構えである。

16。山王堂

明野町の海老島の南方にある。その昔戦国時代に佐竹氏と結んで小田氏治（天なん）を攻めんとした上杉謙信が下野より佐竹、宇都宮、益子、真壁、笠間、茂木勢とともに攻め入り大いに小田勢を破り、氏治逃れ難いところを土浦城主菅谷政貞の兄政頼奮闘して氏治を救い漸く小田城に帰ることができたが政頼三十二歳で戦死した。永禄二年四月二十七日から八日にかけての激戦であった。

17。羽鳥菅原神社址

日本最古の天神様、大宰府の天満宮や京都の天満宮より二十年余り古い。菅原道真の第三子三郎景行が常陸介として来任したとき道真の自画像を神体としてこの地に祭った。後、現在の水海道市大生郷に移したのが大生郷天満宮で、羽鳥の現地には次の文字を彫んだ古碑が残っているだけである。

延長四年二月二十五日

常陸羽鳥菅原神社 所

為右菩提供養也 建

菅景行 源護 平良兼也

（源護は時の大掾、良兼はこの地をもっていた人）

なお、名高い筑波のかがいはこの羽鳥附近の山腹で行

なわれたと言われ歌女（うたひめ）神社がある。

（以下次号）